“号外”パート21　平成25年10月11日　発行所:四国時報

〒768-0011
観音寺市出作町 603-3
電話　0875-25-6883
編集発行人　木下俊明

どうした？オオカミおっさん川上道大
ゴロ付新聞・四国タイムズの紙爆弾止まる!!

四国時報にはもうお手上げなのか？２ヵ月続けて被告川上が発行する四国タイムズ(９月・１０月)に原告の記事が見当たりません。今号で四国時報号外も数えてパート２１となりました。今回の号外発行についてはどうすべきか？と熟考致しました結果、被告川上の紙攻撃が止まっても、それに合わせて何も表明せずに反撃を止める訳にはいかず、本号外で当初から宣言しておるように、不法、不当且つ悪辣な中傷、挑発に対しては断固、反撃、反論を行ってまいりました。この号外はあくまで「専守防衛」であると、原告の対四国タイムズへの姿勢を表明しております。そこで、今回はこれまでに小悪人・川上道大による不意打ちから始まった原告への悪意に満ちた報道記事(四国タイムズホームページのバックナンバーで閲覧可)を時系列に「見出し記事」等を抜粋して、これらに対して痛烈で適切に反論した号外バックナンバーと対比しながら読者の皆様が御判読下さいますようお願い致します。尚、次号の号外発行につきましては、四国タイムズ１１月号次第となります。北朝鮮のミサイル事件同様に即応迎撃体勢を堅持しつつ、臨機応変に対処する所存でございます。

◆四国タイムズによる悪辣報道記事の抜粋◆

◆[平成２３年１２月号]　「飛んで火に入る夏の虫」山口組直参の倭和会が香川に
企業舎弟の見習いと名指しされた人物は共に川上の取材に応じ、内一人は和解している。

◆[平成２４年１月号]　「四国時報の木下発行人から抗議文」
山口組直参飯田会長の香川進出許さず　香川県に進出などしていないのだが頑なに…

◆[平成２４年２月号]　「虎の威を借る狐」木下俊明さんが四国時報で号外
裏切り者的な言い方であるが、川上の後ろに誰か空気を入れる者の存在が見え隠れする記事だ。

◆[平成２４年３月号]「本紙への提訴は暴力団排除の焦り」四国時報創刊は飯田会長の指示か
支離滅裂な記事が目立つ。四国時報の予想外の反撃に相当カリカリきているようだ。

◆[平成２４年４月号]　「コウモリ男の蓄財の謎」暴力団倭和会を訴訟で守る企業舎弟
「本紙が追及する真の的は、あくまで倭和会の飯田倫功会長」としながら原告を中傷

◆[平成２４年５月号]　「四国時報を公安委員も警戒」木下編集人の訴訟は本紙への当て馬
「被告川上道大もお相手致そうではないか」と大見栄張るが、その後次々と川上の報道は論破される。

◆[平成２４年６月号]　「四国時報・原告木下との訴訟」
盛力会から倭和会に寝返った男の正体　「山口組を除籍になった盛力健児会長を見捨てて倭和会の飯田倫功会長に乗り換えたと言っても過言はないでしょう。要するに裏切ったということです。」とあるが、全くの意味不明な記事でコメントに値しない。

◆[平成２４年７月号]　「六代目山口組飯田会長の若衆を介在」
木下・四国時報発行人の巧妙な悪知恵　誤った写真とコメントを掲載し悪質な記事を綴る。

◆[平成２４年８月号]　「提訴から一転の和解交渉」木下企業舎弟の手口はマッチ・ポンプ　はぁ？

◆[平成２４年１０月号]　「六代目山口組倭和会が後ろ盾」襲撃の再開を臭わす木下の脅し
刑事告訴に極度に怯えている様が、記事の内容で見てとれる。結構気弱な男だ。
◆[平成２４年１２月号]　「六代目山口組倭和会が後ろ盾」
四国時報・木下の巧妙な脅しの手口　観音寺市内の喫茶店で情報提供者・十鳥晴美との密会を四国時報記者にキャッチされ焦り、必死に擁護する川上。その後、十鳥は鈍い足取りでタイムズを配り歩く。
◆[平成２５年１月号]　「四国時報号外パート１１の意味」
六代目山口組・飯田会長の命令なのか　必死に山口組と結び付けたいのだが。相当無理がある。
◆[平成２５年２月号]　「四国時報は反社会的勢力の小道具か」
木下原告は広義で企業舎弟・狭義で共生者　焦り？企業舎弟から共生者に呼び名が変更。
◆[平成２５年３月号]　「四国時報は暴力団の隠れ蓑か」木下企業舎弟の号外は山口組の戦力
◆[平成２５年４月号]　「原告木下を支える共生者の顔ぶれ」
香川新聞の横内会長が四国時報と結託　それが一体どうしたというのか？
◆[平成２５年５月号]　「四国時報と四国タイムズの法廷」
原告木下の裁判・裏指南役は元市長候補か　どんな取材をしてこの人物が登場するのか？
◆[平成２５年７月号]　「オオカミおっさんのボディブロー」「被告の本紙川上が反訴」
国家社会の興隆に貢献して男を磨け　自画自賛記事にコメントすら浮かばない。
◆[平成２５年８月号]　「山口組新報と四国時報」六代目山口組の足を引く飯田倫功会長
証人の指示か？飯田会長が山口組内部で立場が悪くなるよう仕向ける姑息な内容の記事だ。

以上、列記した「見出し記事」の表現、表記は被告川上の被害妄想や極度に怯える精神状態、又、山口組執行部と飯田会長を恨む者(被告川上の証人予定者)の入れ知恵が見てとれるような、荒唐無稽で稚拙な妄言記事にあることにお気付きでしょう。四国タイムズの四国時報に対する悪辣報道に悉く反論、論破され、ついには四国タイムズ８月号で「…木下編集発行人から脅迫ともとれる嫌がらせを１年半余りも本紙川上は受け続けているからである。」と泣きが入る始末。過去、四国タイムズに悪辣な記事を書かれた方たちの取る術は、訴訟、四国タイムズに有利な和解、泣寝入とこの３つだけであった。被告川上は訴訟など屁とも思っておらず、むしろ逆にネタにする男だ。先に記した山口組執行部と飯田会長を恨む証人と被告川上とが意気投合し「四国時報を叩け!」という甘い目論見が外れたのは、この号外による痛烈な反撃文である。被告川上の経験から、誰かに仲裁を頼み「川上さん？一度お会いできませんか？」とでも言ってくる計算だったのが、まさかここまでボロクソに反撃喰らうとは思いもしてなかったのだろう。証人は「四国タイムズでは埒あかん」と判断し、今話題の自叙伝出版という流れである。この流れから四国時報の中傷報道が止まったというのが恐らく正解であろう。さて、裁判であるが、相棒の生田暉雄弁護士が懲戒処分され、公判期日に代理人を務められないので被告川上本人が出頭するよう準備書面を直接、被告川上宛に送達したにもかかわらず、指定公判期日の９月２６日に何と裁判所へも不届けで、不出頭でした。大口、大見栄を紙面で演ずる「さや侍・川上道大」は弁護士無しでは対決場(法廷)に出ても来れない卑怯で臆病な男、これこそが川上道大の正体なのです。今月号には警察庁の現役幹部が言ったとされる「四国タイムズは今や四国を越えてほとんど全国的影響をもたらせている」等と自作自演文を掲載したり、裁判所には「四国中、取り分け香川県下のほとんどの会社が購読者だ」と大嘘を平然と申し立てる虚言癖と自慰愛好者の妄想男・川上には「馬鹿は〇〇〇きゃ治らない」という言葉がピッタリ当てはまる。次号は川上次第です。